

目次

- I 合気道の特性とねらい
 - 1 武道の役割
 - 2 合気道の特性
- II 合気道の特性に触れさせる授業づくり
- III 合気道の指導計画
 - 1 合気道の学習内容と評価規準
 - 2 指導計画作成上の留意点
 - 3 単元計画の立て方
 - 4 指導と評価の設定例
- IV 学習指導の展開
 - 第1学年 学習指導案
 - 第2学年 学習指導案
- V 技能の要点
- VI 付録
 - 1 学習ノート例
 - 2 授業の工夫
 - 3 合気道 Q & A

千葉県勝浦市内の合気道未経験の中学生（22年度17名、23年度14名）を対象に、これまで作成された指導案に基づいた研究授業を行った。

さらに文部科学省との共催で平成18年度より毎年実施されてきた学校合気道実技指導者講習会も、今年度は「中学校体育授業における合気道指導について」をテーマに、手引案に沿って講習会および模擬授業を行った。この講習会には保健体育科教員、運動部活動顧問教員、外部指導者計80名の参加があり、合気道経験のない中学校保健体育科教員が授業を行うにあたっての課題や、外部指導者として授業をサポートする場合の注意点などについても議論された。

現在（平成24年2月）までに第1、2学年の学習内容が定まり、第3学年の内容に関しては、来年度から実施される第1、2学年の学習効果などを踏まえ、検討する意向である。

- 合気道の特性は、相手を投げ・抑える側（「取り」）と、相手の技を受ける側（「受け」）の立場が交互に入れ替わり、反復稽古をすることで技を成り立たせ、ともに技の正しさを求めあうことにある。したがって、この合気道の特性を生かし、以下の3つの教育効果を目指して手引を作成した。
- ①相手は1つの技とともに作り上げ、技能を向上させるパートナーであり、お互いを尊重する気持ちを持たせる。
 - ②「取り」は「受け」の習熟度に合わせて技をかけなければならず、安全に稽古を行うために相手の技量を考えて「取り」を行うなどの思いやりの心を育てることができる。
 - ③「受け」の役割を担うことで、

1 手引作成にあたっての組織的背景

平成20年3月の学習指導要領改訂により中学校武道必修化が公表されてから、当会では指導部が担当となり、指導計画づくりについて検討してきた。合気道では一般的な技術書は多くみられるが、青少年を対象とした指導書は今回が初めてであり、

学校教育の視点から、安全で、継続が可能であり、合気道の楽しさを理解してもらえらる内容にすることに重点が置かれた。学習内容については、新学習指導要領解説保健体育編に示された第1、2学年の学習内容を基に、合気道の技能を考慮し、各学年13時間の指導内容を検討した。

手引作成に関わる事業としては、平成22、23年2月に日本武道館との共催で中学校武道授業（合気道）指導法研究事業を行い、



平成24年3月発行予定
『中学校体育実技指導資料 合気道指導の手引』
(A4判、DVD付)

指導教本のねらいと活用のポイント 合気道

財団法人 合気会

本年4月から中学校の保健体育科の授業で武道が必修となる。合気道は、学校現場での授業実践例が少なかったこともあり、中学校武道授業に特化した手引書はなかった。しかし、この必修化を契機に（財）合気会では、『中学校体育実技指導資料 合気道指導の手引』（以下、手引）を作成することとなった。

手引の作成にあたっては、合気道の楽しさを伝えるとともに、礼法、技などを通して日本的な考え方について理解を深める授業が展開できるように検討を重ねてきた。ここでは、手引の概要と活用方法について紹介する。

2 手引作成のねらい

合気道の特性は、相手を投げ・抑える側（「取り」）と、相手の技を受ける側（「受け」）の立場が交互に入れ替わり、反復稽古をすることで技を成り立たせ、ともに技の正しさを求めあうことにある。したがって、この合気道の特性を生かし、以下の3つの教育効果を目指して手引を作成した。

(資料) 単元の目標と評価規準

1 単元の目標 (第1学年および第2学年)

- (1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、基本動作ができるようになるとともに、相手の動きに応じながら、基本となる技ができるようにする。
- (2) 合気道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすることなどや、安全に留意して互いに協力して練習できるようにする。
- (3) 合気道の特性や伝統的な考え方、技の名称や行い方などを理解し、課題に応じた練習の仕方や運動の取り組み方を工夫できるようにする。

2 評価規準

運動への 関心・意欲・態度	運動についての 思考・判断	運動の技能	運動についての 知識・理解
- 合気道の学習に積極的に取り組もうとしている。 - 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとしている。 - 分担した役割を果たそうとしている。 - 仲間の学習を援助しようとしている。 - 健康や安全に留意している。	- 技を身につけるための運動の行い方のポイントを見つけている。 - 課題に応じた練習方法を選んでいる。 - 仲間と協力する場面で、分担した役割に応じた協力の仕方を見つけている。 - 学習した安全上の留意点を他の練習場面に当てはめている。	基本動作をふまえ、相手の動きに応じながら基本となる技ができる。	- 合気道の特性や成り立ちについて、学習した具体例を挙げている。 - 合気道の伝統的な考え方について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 - 技の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 - 演武の行い方について学習した具体例を挙げている。

■評価の方法

学習指導要領では第1学年および第2学年ですべての領域を取り上げることになっているが、手引では2年間継続して1つの領域を取り扱う場合の例を示した。また評価方法は、効果的・効率的な評価が行えるように、学習ノート等で授業後に教師が確認しながら評価する方法と、

指導計画では、単元計画の間と最後に演武を設定した。中間ではクラスを3つぐらいのグループに分けて教師の指示で演武を行うが、最後では小さなグループごとに演武をするようにしている。グループ活動をする中で、仲間と協力する態度を育てるだけでなく、他人の演武を見る「見取り稽古」を通して自分の技の自己評価や、技の理解を深めることもできる。また、技能だけでなく、演武の入場から退場までの礼法や相手に対する気持ちを見る機会としたい。

▽演武

特に③の段階ではいろいろな相手と稽古をすることで、技の理解や相手への配慮を深めることにつなげてもらいたい。

受身の楽しさを味わえる。さらに合気道の経験がない保健体育の教員が理解しやすいように、技能の説明に写真を多く取り入れ、映像資料としてDVDを添付した。また一斉指導のための号令のかけ方や指導のポイントも写真とともに載せ、授業で活用できるように心がけた。外部指導者などは独自の指導法を展開しがちだが、地域道場や部活動ではなく、あくまで保健体育の授業として合気道を行うということをし、手引を通して理解していただきたい。

手引活用のポイント

3

(1) 授業の組み立て方

■単元計画作成について
年間計画や単元計画、単位時間計画(指導案)などの指導計画を作成する上では、学習指導

要領の目標を踏まえる必要がある。そこで、学習指導要領解説保健体育編に示されている柔道、剣道、相撲の学習内容を合気道に置き換えたものを作成した。各学校における単元計画の作成は、学習内容を具体化し、単元の目標を明らかにして生徒の学習のねらいにするとともに、単元の学習を通じての評価の基準を考えることになる。手引では、学習内容を具体化した「単元の目標」および「単元の評価基準」の例を示した(Ⅲ合気道の指導計画)。ここでは第1学年および第2学年の例を左頁に資料として示す。また、単元の計画では授業時数を13時間と想定し、学習指導案を1時間ごとに示した(Ⅳ学習指導の展開)。実際の単元計画を作成するにあたっては、次項で述べる「技能の取扱い」の考え方や「評価の方法」が参考になると思われる。

■技能の取扱い

技能に関する学習内容には、

(1)基本動作、(2)対人的技能、(3)演武がある。「Ⅳ学習指導の展開」の作成にあたり、学習を進める順序としては「単独→相対」「基本動作→対人的技能」を原則として考える。それぞれの学習内容については、次の点にポイントを置いた。

▽基本動作

対人的技能が基本動作の組合せから成り立っていることから、稽古においては基本動作の積み重ねが大切となる。したがって、準備運動のように毎時数回ずつ取り入れ、時間をかけてしっかりと身に付けるようにしたい。

対人的技能を行うためには、

受身を正しく取って体の安全を図ることが重要であり、受身の習得は必須である。基本動作の1つである「後ろ受身」は、恐怖心を和らげ、けがを防ぐため、段階的な指導法を導入した。また基本動作は単調な動作になるため、生徒に興味や関心を持たせるための指導の工夫(Ⅴ付録)を紹介している。

▽対人的技能

対人的技能では、段階的な指導を取り入れることで、安全に相対動作を行えるようにした。特に、「逆半身片手取り角落し」は、単独動作から相対動作への導入の技とするだけでなく、単元内で繰り返し稽古することで、受身の習熟度向上を図る技とした。

1つの技能を習得するまでのプロセスは次のように考え、指導計画の中に反映させている。

①号令をかけながら、「取り」と「受け」の動作を行い、動きを覚える

②動きを理解したら「取り」「受け」の習得の度合いに応じて技を行う

③反復して技を行う稽古を通して技を体得する

好評発売中!!

DVD VIDEO

泊手の術が映像で初公開!

泊空手の真実と伝承秘

トマリ手太初

【収録内容】

- トマリ手の鍛錬 1
(移動稽古、押し合い、上中下の受け)
- トマリ手の鍛錬 2
(組んで投げ、突き合いの稽古)
- 型の稽古
(ナイハンチ、セイサン)
- トマリ手の型
(ナイハンチ、セイサン、サイの型)
- 競技に活かすトマリ手の技法

- 商品番号:DCMP-4601
- 収録時間:カラー75分
- 価格:6,000円(税込)

CHAMP 商品のお問合せ・ご注文はこちらまで

TEL: 03-3315-3190

受付時間 9:30~18:30 定休日 日・祝日

FAX: 03-3312-8207

http://www.champ-shop.com/

定の速度で同じ動作をさせることが有効である。生徒数が多い場合には、グループに分けて指導を行い、見取り稽古をさせるのもよい。また指導者の指示がないときに自分勝手に技をかけさせないことなどは授業時の約束事として守らせ、相手に合わせた力や技の強弱の加減などもしっかりと指導していかねばならない。

(3) 補助教材

手引と併せて、教師または生徒が参考にできるような本、DVDは、次のとおりである。

4 手引の入手方法及び頒布状況

指導の手引は平成24年3月の発刊を目指し、各都道府県の連盟団体、県教育委員会などの関係団体や、授業実施校、希望校にも配布する予定である。詳しくは財合気会事務局まで。

▽『合気道パーフェクトマスター 1』植芝守央著(新星出版社)
▽『もっとうまくなる!合気道』植芝守央著(ナツメ社)

5 おわりに

平成22年度より新潟県加茂市で学校武道の授業選択の1つとして合気道が採用されている。今年度の授業アンケートでは、

〒162-0056
東京都新宿区若松町17-18
財団法人合気会
電話 03-3203-9236
FAX 03-3204-8145

「受身が楽しい」「技ができると楽しい」という感想の他に、「礼儀を学ぶことができた」や「力の加減が難しかった」といった、礼法が身についた喜びとともに、相手を気遣う意見も多くみられた。これは、手引を作成するにあたって、目標とした教育効果の表れともいえるだろう。

合気道は保健体育科教員に経験者が少なく、実施される学校数も多いとは言えないが、手引を手にしていただき、当会が主催する講習会などで経験を積み、合気道のよさを生徒に伝えていただければ幸いである。



合気道の指導を受ける中学生(中学校武道授業「合気道」指導法研究事業より)

授業中の学習状況の「見取り」を組み合わせた評価方法を採用した。評価結果は記録する機会を過度に設定しすぎないように配慮した。授業時数が多く取れない学校では、手引の「指導と評

価の設定例」を参考に、学校の事情に合わせて設定するといよい。

(2) 授業の進め方

■基礎知識を身に付けるには
合気道で使う用語や技の名称

は日常で用いられないものが多いため、授業資料や黒板などに表記して用語の確認をしたり、わかりやすい言葉で指導するなどの工夫が必要である。また、技の流れや演武の様子などの理解の助けとしてDVDを見せたり、生徒の疑問に答えるための「合気道Q&A」(V付録)も併せて活用していただきたい。

■伝統的な行動の身に付け方

合気道では、自己を修養する場や、指導者と稽古相手への礼というように、道場の入場から退場まで「礼に始まり、礼に終わる」が実践されている。授業では、礼法の意味を理解させるだけでなく、道場の雰囲気作りや指導者自身の、礼法をはじめとした立ち居振る舞いを通して自然と身に付くようにしたい。

単元の開始時には「授業を行う場」であった場所が、単元終了後には「道場」になり、さらに道場の外でも礼法が身に付いていることが望ましい。

■技能の伝え方

合気道は、ほとんどの生徒が初めて経験するため、単元開始時の状況は同じであるが、後ろ受身をたくさん行うことで体力差を感じたり、技の手順が理解できないことなどが苦手意識につながることがある。

技能の指導においては、生徒の体力や習熟度に応じて評価を設定するなど工夫をし、技の完成度よりむしろ合気道を楽しむ、もつと経験してみたいという気持ちにさせることを大切にしてもらいたい。そのためには指導者自身が合気道の稽古を積み、合気道のよさを身を持って実感していることも必要であろう。

■安全指導

授業中の事故やけがは、健康管理、環境(場所、気温)、授業の進め方などを事前に十分確認しておくことで未然に防ぐことができる。

生徒同士の接触を防ぐためには、列を揃え、号令をかけ、一